

準天頂衛星システムについて

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

R2年度概算要求額 262.6億円
(H31年度予算額 262.5億円)

- ◆ 日本版GPSとも呼ばれる我が国独自の衛星測位システム。
- ◆ GPSの補強信号を生成し、センチメートル級の高精度衛星測位を実現（GPSは5～10m）。
- ◆ 2018年11月1日に4機体制でのサービス開始。自動走行、農業、物流、防災分野等への利用が期待される。
- ◆ 令和5(2023)年度めどの7機体制による持続測位の確立及び機能・性能向上と、これに対応した地上設備の開発・整備等に取り組む。

■ 宇宙基本計画

(平成27年1月宇宙開発戦略本部決定、
平成28年4月閣議決定)

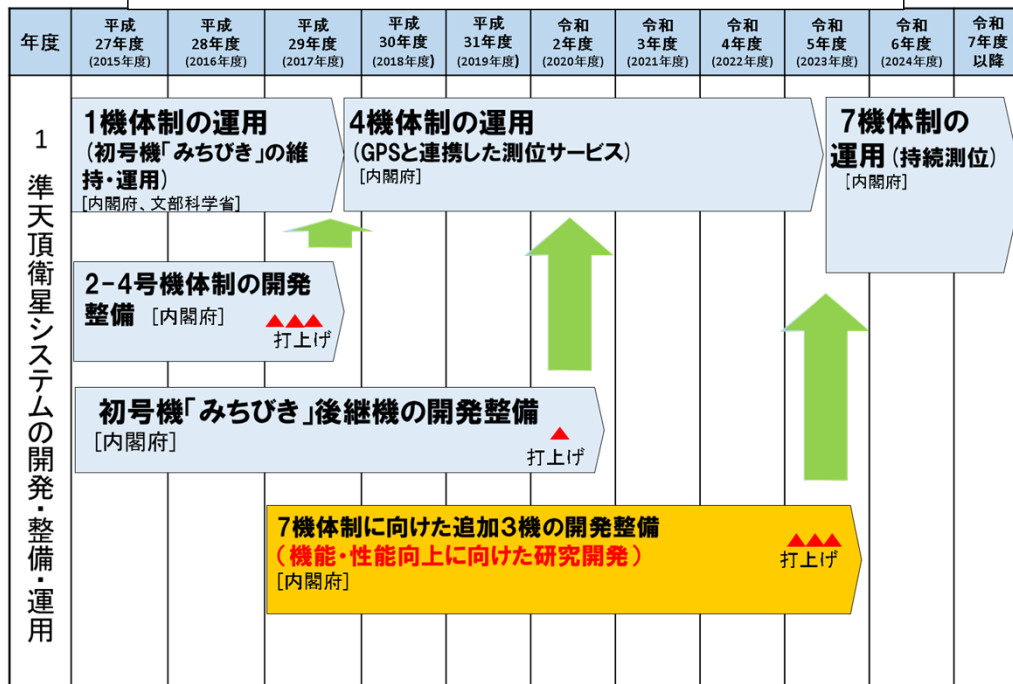
持続測位が可能となる7機体制の確立のために必要となる追加3機については、平成29年度をめどに開発に着手し、平成35年度をめどに運用を開始する。』

■ 経済財政運営と改革の基本方針2019

(令和元年6月閣議決定)

準天頂衛星システムにおける7機体制の確立及び機能・性能の向上と、これに対応した地上設備の開発・整備等について、効率化を図りつつ着実にを行うとともに、G空間プロジェクトとも連携し、国内外での利用拡大を図る。

宇宙基本計画工程表(平成30年12月改定)



準天頂衛星システムの軌道

日本のほぼ真上(準天頂)に1機あたり約8時間滞在(下図は7機体制イメージ)

